

STAGE

AMUSEMENT SQUARE

演劇空間「スペースベン」

“いい”演劇って何だろう

文/スペースベン代表・田中勉

前回も紹介した様にFANSの「F」はFriday(金曜日)の頭文字である。では「A」は何の略か?今までは、Art(芸術)のAとしてきたが、やはりここは紙面の関係上、アミューズメントの「A」に変えようかと真剣に思ったりしているところである。

ともかく、去年の2月から始まったFANSは、年内にはふとどきにも一〇〇回を数えようとしている。その中で、どういってお客様が足を運んでいただいたのか?

：色々である。当たり前のようにではあるが、実に様々である。



▶「イージシアター我楽多屋」公演より

しかし、来場回数からみると、3、4回連続して来場し、その後ぶつりとこなくなる観客。そういう方がほとんどであった。現在行っていないがFANSでは名簿管理をしていて、約一年経過した後に洗い出しをしてみた結果、三〇〇人近い会員がいる中で、月一回ぐらいのペースでFANSに足を運び、それが三ヶ月以上継続した観客というのは、実に4、5人しかいなかった。

それでいいと思う、観客はお金を払い、それに見合う心の葛藤を満たす。それが払った金額よりも大きければ納得し、小さければ損をしたと思う。全くそのとおりだと思う。一度おもしろくないと思ったものには足は運ばないし、わざわざお金を払ってまで観に行こうとは思わない。

しかし一つ思うのである。「おもしろい」というのはどういうことか?

たとえば、ビートたけしとか伊奈かつべいがブラウン管の向こうでギャグを言い、同じギャグを無名のタレントがブラウン管の向こうで言う。どちらがおもしろいか?結果は一目瞭然である。知っている役者(タレント)と全く知名度のない役者とは、舞台上立つスタート地点が違うのである。何もうちわ受けでいいと言っている訳では

ない。一つの作品を創り出すときにはどこで公演しても通用するぞという意気込みを持ってやっているのは事実である。そういうパワーがなければ作品は創り出せないし、公演を打つべきでもなからう。しかし、現在の八戸(何も八戸に限ったことではないが)の状況において、演じる側と観る側との関係性において、知名度・親近感で、作品の評価が違ってくるのは否めない事実である。

「いい作品」の、「いい」という定義は難しいものがあると思うが、「おもしろい」と「いい」とは意を異にするという事を今一度考えてみたい。八戸市内に拠点を置き、国内のみならず海外でも活躍しているモレキュラーシアター(代表・高沢利栄)の作品を観てみるのもオモシロイのではないだろうか。

そんな中で、今年七月にバラボラで行われた、イージシアター我楽多屋(代表・長尾広海)の公演の観客の中に、しばらくFANSではお見掛けしていなかった年配の男性の方を見つけた時には、うれしさがこみあげてきたのを憶えている。

FANSでは、基本的には、奇数月にあるテーマを掲げたマンスリー公演とし、予定ではあるが、来年一月には一人芝居月間とすることで話を進めている。したがって十一月はお休みの月となるのだが、どうしても公演したいと言う声があり、次の番組を予定している。

○十二月八日
「今を生きる」

作・飯豊千織

出演・市内高校演劇部生徒

九月三十日・十月一日に行われた高校演劇地区大会でやりきれなかった事、できなかった事に挑戦します。

○十二月二十九日

「FANS忘年会」

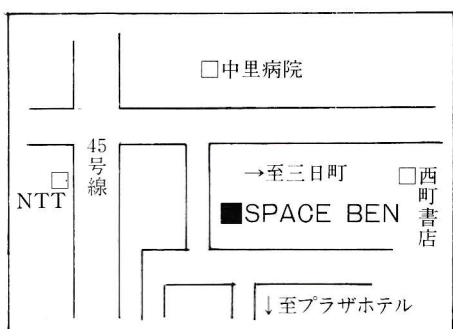
当日も五百円会費で、フリートーク形式でワイワイ気軽に行います。十代から上限無し。どなたでも参加して下さい。

もしかしたら他の週にも、何かおもしろいことがあるかも知れません。お近くをお通りの際に、フラッと足を運んでみるのも一興かと。

問い合わせ先

〒031 八戸市柏崎一ノ十二ノ八

TEL & FAX 〇一七八(四三)九八七六



車での来場はご遠慮下さい(近くに西町書店駐車場有)